

戦国大名毛利家に関する新たな古文書を発見！

杉並区立郷土博物館(杉並区大宮 1-20-8)で、戦国時代、中国地方で権勢をふるった戦国大名・毛利家に関わる新出の古文書が展示されています。厳島の戦いや関ヶ原合戦を前にした毛利家の巧みな動きを知ることのできる貴重な史料です。6月2日まで展示されます。

これらの古文書は、昨年度に区民の方から博物館に寄贈されたものです。調査の結果、中世から近世にかけての古文書13点で、中国地方の戦国大名・毛利家の重臣であった桂氏の文書であることがわかりました。さらに、いままで知られていなかった古文書4点が含まれていました。

1555年(天文24年)、毛利元就^{もうりもととなり}は、陶晴賢^{すえはるたか}と交えた「厳島の戦い」に勝利し、中国地方一帯を支配する大大名となります。この合戦を前にした元就は、近隣領主の勧誘工作を図ります。今回新発見されたうちの1点は、陶氏方に近い有力な領主だった天野氏が支配下に入ったことを、仲介役となった桂氏に対して、その功績への礼を込めて丁寧^{たかもと}に知らせている元就とその子隆元連名の書状です。

また、1600年(慶長5年)に起こった天下分け目の戦い、「関ヶ原の戦い」の直前あるいは前年に推測される、徳川家康が元就の孫輝元^{てるもと}に送った礼状も発見されました。内容は、輝元が家康に送った珍しい贈物に礼を述べているものです。関ヶ原の戦いでは、家康は東軍の総大将に、輝元は西軍の総大将になって対立することになりますが、この文書が新発見されたことによって、その直前にあって両者は贈答などのやり取りをしていたことがわかりました。

いずれも、生き残りをかけた戦国大名の巧みな駆け引きや戦略を知ることのできる史料です。博物館では、この2点の新出文書を含む4点の古文書を展示しています。また、文書全体の解説は、『杉並区立郷土博物館研究紀要』第25号(平成30年3月刊)で紹介されています(郷土博物館で無料配布)。



■杉並区立郷土博物館(杉並区大宮 1-20-8)

開館時間 午前9時から午後5時まで

休館日 毎週月曜日、毎月第3木曜日

(祝日・休日の場合は開館し、翌日休館)

観覧料 100円(中学生以下は無料)

[問い合わせ先] 杉並区立郷土博物館 03-3317-0841

総務部広報課 03-3312-2111 (代表)